



3/6

思いやこたわりを知る もばらふるさと塾「農業・農村交流体験ツアー」

地元農家の農産物への思いやこたわり、地産地消の重要性を感じてもらおうと、茂原市農業活性化推進協議会は、第24回もばらふるさと塾「農業・農村交流体験ツアー」を開催しました。

28人の市民が参加した今回のツアーでは、花の栽培農家の見学やシタケ栽培農家で収穫体験、旬の里ねぎぼうずでの買い物など一日かけて茂原の農業を楽しみました。



▲袋いっぱいしシタケを詰め込む参加者



▲各市町の教育委員会を通じて児童に配布されます

3/19

安全安心の学校生活のために 新1年生に交通安全用品を贈呈

茂原交通安全協会は、長生地域4市町（茂原市、白子町、長柄町、長南町）の教育委員会に交通安全用品を贈呈しました。

今年で25回目となるこの贈呈式は、同協会の女子部が中心となっており、長生地域4市町の計23校に入学する児童848人分のランドセルカバーと交通安全下敷きを贈呈。

当日は、茂原警察署や教育委員会の関係者らも参加し、交通事故防止に向けた取り組みについて話し合いました。

3/25

市民参加のまちづくり まちづくり条例の答申を提出

茂原市まちづくり条例策定協議会は、茂原市まちづくり条例の素案について、平成26年1月から平成27年3月まで18回の会議を開催して審議を行い、3月25日に行われた第18回会議の席上において、関谷昇会長（千葉大学准教授）より、田中市長に答申しました。

この答申には、「情報の共有、参加、協働」をまちづくりの基本原則とし、まちづくりの担い手である市民等、市および議会の役割などを定めた内容が盛り込まれました。



▲田中市長に答申書を手渡す関谷昇会長（千葉大学准教授・写真左）



▲左から岡本事務局長、古谷前教育長

3/25

よくみてわたろう みぎ ひだり セーフティハンド贈呈式

新1年生を交通事故から守ろうと、一般社団法人千葉県トラック協会は、交通安全手形「セーフティハンド」748枚を茂原市教育委員会に寄贈しました。

このセーフティハンドは、黄色でドライバーからも確認しやすく、子どもたちが横断歩道を渡るときの良い目印となります。この手形を見かけたら、安全運転をお願いします。